

那賀川自然再生事業の報告

那賀川河川事務所

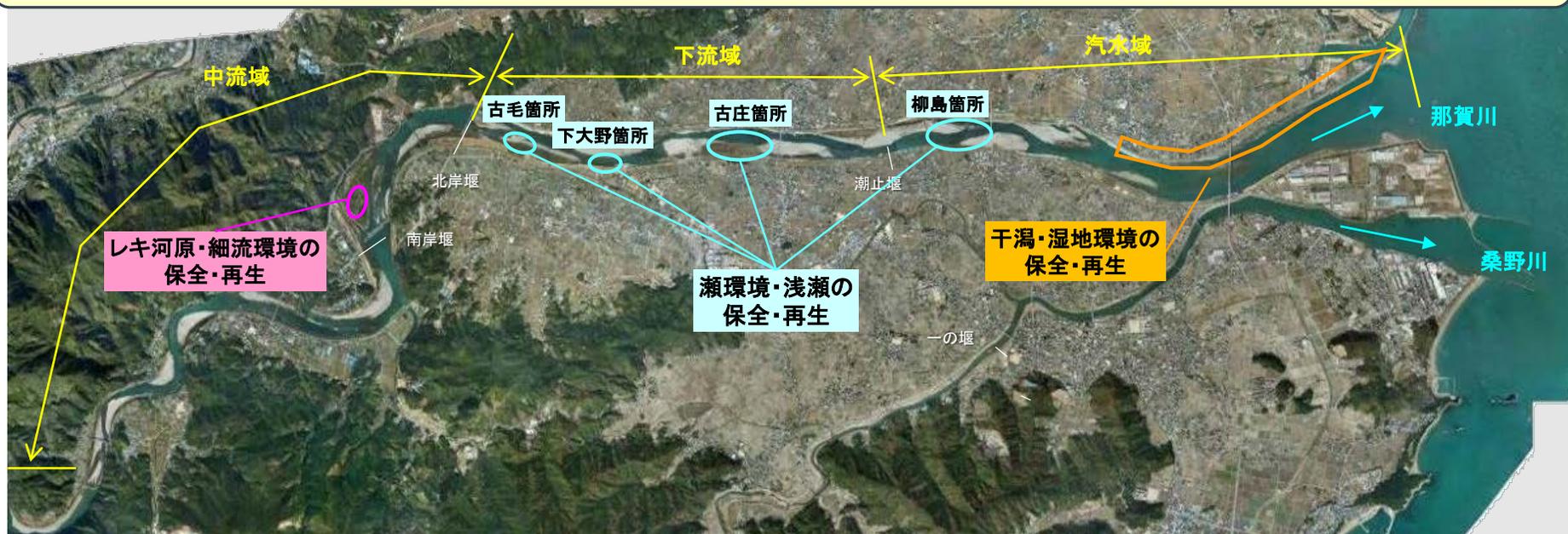
那賀川自然再生事業

■整備目的

土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境は、現状のままでは自然の営力による回復は期待できないことから、関連工事等と連携して、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復を目指す。

目標① アユの産卵場となる瀬環境やナベツルのねぐらとなる浅瀬などの保全・再生

目標② シオマネキ等が生息する干潟環境やコウノトリ・ツル類の餌場となる湿地環境の保全・再生



樹木伐採等によりレキ河原・細流環境や浅瀬が保全・再生され、ナベツルのねぐら利用も可能となる。



河床の整正や床止工の設置等により、瀬や浅場が拡充・維持され、アユの産卵やナベツルのねぐら利用が可能となる。



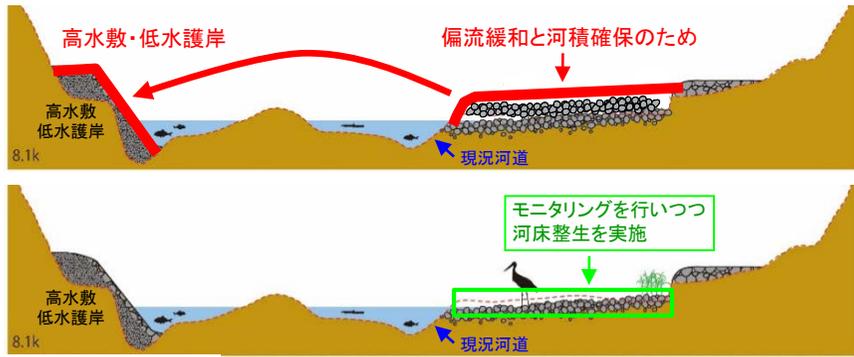
水制の設置等により湿地や干潟が再生され、シオマネキ等の多様な干潟生物の生息が可能となる。

令和4年度・令和5年度の取組

●グリーンインフラの取組

自然環境の保全・復元などの自然再生(瀬環境・浅瀬の保全・再生)

- アユが産卵できる瀬環境を保全・再生するため、河床低下緩和のための床止工を設置し、モニタリングを行いつつ河床整正を実施し、現況と同程度のアユ産卵場を維持する。
- 緩傾斜をつけた砂州切下げによってアユ産卵場やナベヅルがねぐら利用できる浅瀬を整備する。



緑字: 自然再生事業
赤字: 治水事業

令和4年実施箇所



■アユ産卵・ナベヅル飛来確認状況(古庄箇所)

- 令和3年度のモニタリング調査により、古庄箇所において新たなアユの産卵場の創出を確認。
- 令和3年度にはナベヅル(ねぐらとして利用)も確認された。



令和4年1月



令和4年度・令和5年度の取組

●グリーンインフラの取組

自然環境の保全・復元などの自然再生(置土)

- ダム貯水池容量の維持とダム下流の河川環境改善（粗粒化の解消など）を目指して、長安口ダム上流に堆積した土砂を掘削し、ダム下流への置土(土砂還元)を実施。
- 平成19年から令和3年度までに約2,050千m³の土砂を除去し、約1,680千m³の土砂を還元。
- 土砂還元により、淵であった箇所には瀬や砂礫河原が出現し、変化に富んだ河川環境が復元。
- 川口ダム上流河道では、土砂還元により供給された礫が主体の河床材料で構成される箇所において、新たにアユの産卵場を確認。

